

シリーズ

弥生土器をつくろう！ ④ 弥生時代後期編

近畿地方の弥生時代後期（1世紀～3世紀頃）の壺を代表するのは、丸い胴部に細長い頸部がつく「長頸壺」です。

唐古・鍵遺跡では、大溝や井戸などから完全な形の長頸壺が多く出土しています。水の神に捧げるなど、当時のお祭りや儀式に使われた可能性も考えられます。



弥生時代後期の壺 2世紀頃



記号のある長頸壺

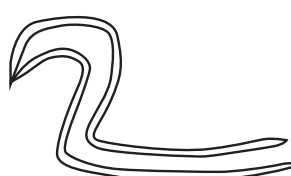
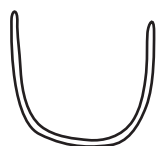
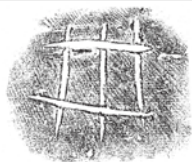
この時期の壺には、矢印や曲線・直線・丸などを組み合わせた「記号文^{きごうもん}」というものが施されることがあります。弥生時代の人々にとって、原始的な文字のような役割を担っていたのではないか、という意見もあります。

※ペーパークラフトのデータは、

- ① ノーマル（無文）のカラープリンター用データ
- ② ノーマルの茶色い紙用のモノクロデータ
- ③ 記号が施されたカラープリンター用データ
- ④ 記号が施された茶色い紙用モノクロデータの計4種があります。

※モノクロデータは、茶色い封筒などをA4サイズに切ってモノクロ設定で印刷してください。

記号文の一例



※無地のデータを使って、弥生時代のさまざまな記号を自由に施してみませんか。